

# 2023年 カンボジア体験ボランティア活動記録集

2023年8月20日～8月28日



認定NPO法人

**JHP・学校をつくる会**  
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER

## ボランティア活動の目的

JHPの理念「日本の若い世代への地球市民教育の実践」のもと、「国境の壁、人種、民族の違いなどを越えて、広く地球的視野が持てる人材が育つ」場として、1993年から大学生を中心とするボランティア活動隊を、カンボジアに派遣してきました。

主な活動は、学校の校庭に遊具ブランコを建設、地元小学校・児童養護施設(CCH)の子ども達との交流、実施中のJHPプロジェクトの視察、NGO施設への訪問などです。

この活動を通して、「人とのつながりの大切さを認識する」「子どもたちと喜びを共有する」「カンボジア歴史・風土文化などを肌で感じる」ことを実体験として学びます。

これまでに、延べ1,200名を超えるボランティアがJHPの一員としてカンボジアに渡り、炎天下での活動に汗を流してきました。

この記録集では、参加者がカンボジアで体験した、見て聞いて感じたことをお伝えします。

## カンボジア王国 Kingdom of Cambodia

- ・国名 カンボジア王国
- ・首都 プノンペン 人口:約200万人
- ・公用語 クメール語
- ・面積 18.1万Km<sup>2</sup> 日本国土の約半分
- ・人口 1,510万人 20歳以下人口46%
- ・宗教 90%が上座部仏教、ほかイスラム教、カトリック
- ・通貨 リエル(R)4000≒US(\$ )1



立憲君主制の民主主義国家であるカンボジア王国は、人口約1,510万人で、90%のクメール人の他、中国系、ベトナム系、チャム族などの少数民族で構成されています。9～15世紀がカンボジア王国「アンコール時代」で、アンコール・ワットやアンコール・トムなどの世界的な遺跡が建設されました。

しかし次第に勢力が衰えると隣国の侵略を受け領土を縮小し、1887年にフランスの植民地化。

1953年にカンボジア王国としてフランスから独立した後、しばらくは安定した王政国家が続きますが、クーデターが1970年に勃発、以後内戦状態となります。1975年ポル・ポト政権の誕生により内戦は終結。しかし、ポル・ポトの恐怖政治により170万人以上が死亡する悲惨な時代となりました。

1979年ベトナムの支援を受けたヘン・サムリン政権誕生後も国内の混乱は続き、1993年パリ協定に基づきUNTAC(国連カンボジア暫定統治機構)が総選挙を実施。シハヌーク国王が即位しました。

ポル・ポト時代に大量の教員や、高等教育を受けた人々が殺され、ほとんどの教育施設が閉鎖されたことにより、カンボジアの教育制度は崩壊。国の復興にとって、教育制度の立て直しは最も重要な課題のひとつとなっています。

## 活動隊の歩み

■実施回数:48回

■参加者数:1,237名(内学生971名)

■活動期間:8日~30日

■活動時期:3月、5月、8月、12月(2015年から8月のみ)

1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
1回	3回	2回	3回	4回	1回	2回
・贈呈式 ・遊具作り	・贈呈式 ・遊具作り	・贈呈式 ・遊具作り	・贈呈式 ・遊具作り	・贈呈式 ・遊具作り ・水害被災地 域支援	・贈呈式 ・遊具作り	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈

2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
2回	2回	2回	2回	2回	2回	2回
・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈 ・スラム街火災 被災地支援	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈

2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
1回	1回	2回	2回	1回	2回	2回
・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈						

2014年	2015年	2017年	2018年	2019年		2023年
2回	1回	1回	1回	1回		1回
・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・贈呈式 ・遊具作り ・文具寄贈	・校舎補修 ・遊具作り ・文具寄贈 ・現地大学交 流	・贈呈式 ・校舎補修 ・遊具作り ・文具寄贈 ・現地大学交 流	・贈呈式 ・遊具作り ・フィールド ワーク		・贈呈式 ・遊具作り ・衛生ワーク ショップ ・現地NGO訪 問

2016年未実施

2020~2022年まで新型コロナのため未実施

## カンボジア体験ボランティア 参加者



山森 鈴夏	学生	北村 巖	社会人
磯山 こはる	学生	新行内 博	社会人
四元 宏基	学生	渡辺 真由美	社会人
荒木 景子	学生	安田 徹	社会人
松本 陽	学生	吉田 将三	社会人
大平 賢奈	学生	鈴木 直人	社会人
鴨野 凱	学生	和田 勝則	活動サポーター
佐々木心優	学生	渡辺 悠斗	JHP東京スタッフ
高橋 園香	学生	野村 政道	JHP東京スタッフ
佐藤 彩名	学生	辰川 はる奈	JHPプノンペン駐在員
		水野 泰晴	JHPプノンペン駐在員

## カンボジア 体験ボランティア



illustration by S.Yamamori

## カンボジアでの活動スケジュール

日		イベント	活動内容	
8月20日	1日目	出国	直行便が無い為、ベトナム経由	
8月21日	2日目	見学	トゥールスレン見学	
		移動	スワイリエン州に向けて車5台で移動	
8月22日	3日目	ブランコ設置	ブランコ設置作業 穴掘りからコンクリート埋め迄	
8月23日	4日目	ブランコ設置	ブランコ設置作業 ペンキ塗り、完成	
		贈呈式	ブランコと手洗い場贈呈式	
		衛生ワークショップ	衛生ワークショップで手洗いの仕方をコーチ	
		交流会	綱引や鬼ごっこ、折り紙で交流会	
8月24日	5日目	移動	プノンペンに移動	NTs(*1)
		芸術教育見学	NTsによる芸術教育見学 参加	芸術教育(*2)
8月25日	6日目	CCH交流	芸術大学の学生指導によるCCHの子どもたちとの創作活動 CCHの子どもたちと交流	NOM POPOK(*3)
		NOM POPOKさん	NOM POPOK 大路さんの食育見学	
		文化鑑賞と体験	カンボジア芸術鑑賞	
8月26日	7日目	観光	うどん山 散策	Side by Side(*4)
		NGO訪問	NGO Side by Side International 訪問	
8月27日	8日目	買物/市場調査	セントラルマーケット イオンモール 空港へ 出国 → ハノイに → 成田に	
8月28日	9日目	帰国	夜間飛行	
8月29日			成田に到着	

### JHP が進める初等科芸術教育支援事業

カンボジアの音楽・美術教育は、独立した科目ではなく、「社会科」の一部として位置づけられており、十分な時間数が有りません。JHPは、「カンボジアの全ての子ども達が学校で質の高い芸術教育を受ける事ができる」教育環境を、カンボジア全土に整えることを最終目標に、この事業に取り組んでいます。

(\*1) NTs: ナショナルトレーナー:

日本人専門家等の指導を受けて、芸術教育において模範となる教員。この教員が他の先生を指導します。

(\*2) 芸術教育見学:

NTsが、小学校で模範となる美術と音楽の芸術授業を行います。今回の活動隊は、小学生に交じって(一緒に机に並んで)授業を受けました。美術では「好きな景色を描く」、音楽では「伝統的な踊りを踊る」を子どもと一緒に行いました。

### カンボジアの抱える社会問題の一つ、子どもの栄養不良

5歳未満児の子どもの21.9%が発育阻害(慢性的な栄養不足)です。

(\*3) Nom PoPok:

健康的なお菓子ツールとして、健康的で栄養ある食生活の大切さについて、子どもたちに伝える取り組みをしている日本人が営む小さな会社。 <http://popok-khmer.com/>

### 貧困や災害その他の困難な状況に直面している人々の生活向上のための人道的支援活動

(\*4) Side by Side International: 特定非営利活動法人 サイド・バイ・サイド・インターナショナル  
救急車など緊急車両や医療機器の寄贈・輸送、公立病院の医療従事者のための訓練を通じての、救急医療体制の強化、貧困村や養護施設での医療・衛生支援などを行う、カンボジア政府公認の国際 NGO  
<https://side-by-side-intl.org/>

# 日々の活動

## 事前説明会

7月17日	第1回説明会	14:00~16:00 港区 いきいきプラザ	参加者自己紹介 カンボジア活動内容説明 注意事項、CCP（チャイルドプロテクションポリシー）説明 オレンジTシャツ贈呈 役割り分担決め
8月13日	第2回説明会	14:00~16:00 港区 いきいきプラザ	詳細スケジュール共有 衛生ワークショップ 打ち合わせ CCH アート活動 打ち合わせ

## カンボジアに向けて活動開始 活動 初日

8月20日	1日目	出国	7:30	成田空港 第1ターミナル北ウイング Aカウンター前集合
			9:30~	出国 成田 → ベトナム ホーチミンへ
			13:45	ホーチミン空港到着 乗り継ぎ口へ移動
			16:00~	出国 ホーチミン → プノンペンへ
			16:45	プノンペン空港 到着
			17:30~	ホテルへ移動
			18:30~19:30	ホテルで夕食（JHPプノンペン駐在員同席）

成田空港第1ターミナル北ウイング  
Aターミナルに集合  
直前まで海外にいた人や、遠隔地の隊員もいて、実は「初めまして」の挨拶もありました。



成田空港

プノンペン到着  
オレンジTシャツを着て心は一つ  
元気そうに見えますが、プノンペン空港周辺は激しいスコールのために、30分以上にわたり上空で旋回待機していました。そのため気持ち悪くなった隊員もいました。  
明日に備えて、今日はホテルでゆっくり休めます。  
滞在先のニューヨークホテルは、想定以上に良いところでした。  
地方のスイリエン州滞在先のホテルとはギャップがありました。



プノンペン空港

## 活動 2 日目



8月21日	2日目	見学	7:30~8:30	朝食
			9:00~10:00	ホテルでオリエンテーション (PP事務所事業説明、ブランコ設置手順説明)
			11:00~12:00	トゥールスレン見学(オーディオガイド)
		12:00~13:00	昼食	
		移動	13:00~	スワイリエン州に移動
			16:30	ワイコーホテルにチェックイン
18:00~19:00	夕食			

今日は、カンボジアの過去の歴史について学びました。辛く悲しい過去がありました。何故ここまでしなければいけなかったのかと問いたいです。何もないところからここまで発展を遂げているカンボジアは、本当に努力の結晶なんだと思いました。(佐々木)

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ～一日を通して感じた思い～

ドライバーさん 長い時間の運転ありがとうございました！（荒木）

### ■ 2日目の感想

初の海外で緊張していましたが、朝の散歩でカンボジアの雰囲気が分かり、とても良い経験ができたと思いました。明日から始まるブランコの建設も楽しめたらいいなと思います。(松本)



オリエンテーションの様子



スワイリエン州移動途中、きずな橋で



滞在先のワイコーホテル



ロビーでヤモリがお出迎え(部屋でも・・・)

## 活動 3 日目



8月22日	3日目	ブランコ設置	6:30~7:30	朝食
			8:00	メーサン小学校に向けてホテル出発
			9:00	メーサン小学校に到着
			9:00~11:30	ブランコ設置作業
			11:30~13:30	昼食
			13:30~16:00	ブランコ設置作業
			16:00	1日目 作業終了 ホテルへ
			17:00	ホテル着
			18:00~19:00	夕食

今年からはスチール製のブランコになりました。

メーサン小学校に到着後、早速、2基のブランコの基礎の穴を掘り、栗石とコンクリートを入れて午前中の作業は終了。

昼食中にスコールがあり、少し風があり、涼しく感じられました。

午後は、基礎の穴にブランコを立ち上げて、栗石とコンクリートを打ち込み、今日の作業は予定通り完了しました。(北村)



支援者様からの差し入れレトルトカレー

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ～一日を通して感じた思い～

昼食に関東給食会様からの美味しいカレーをいただきました。

メーサン小学校からはココナッツジュースの差し入れをいただきました。ご飯を温めるための炭を提供していただいた小笠原グリーン様にも感謝です。 オークンチュラン。(新行内)

### ■ 3日目の感想

今日は8月22日、カンボジアに来て3日目です。

ホテルの朝食で食べた牛スープ米麺が美味しかったです。その後、1時間ほどバスに乗り、カンボジアのスイリエン州のメーサン小学校に向かいました。

小学校に着くと笑顔の子ども達が迎えてくれました。早速、皆で道具の点検や穴掘りをしました。炎天下の中での作業は中々大変でしたが、設置作業を楽しそうに見ていたり、お手伝いをしてくれたりしている子ども達を見て頑張ろうと何度も思いました。

また、休憩時間に子ども達と遊びや交流をしました。興味があるけど恥ずかしがっている子、積極的にコミュニケーションをとってくれる子など個性があって、一人一人関わっていて楽しかったです。

本当にありがとうございました。(佐藤)



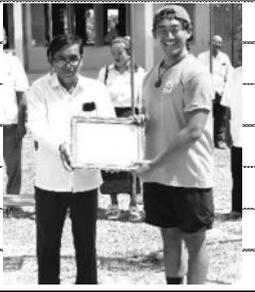


## 本日の作業

- ・設置場所を決める。 1
- ・地面にマークを付ける。 2
- ・深さ50cm までの穴を掘る。 3
- ・石を15cm の深さ迄敷き詰める。 4
- ・5cm のモルタルを敷き詰める。 5
- ・ブランコを穴に挿入する。 6
- ・コンクリートをこねる。 7
- ・コンクリートを各穴に敷き詰める。 8



## 活動 4 日目

8月23日	4日目	ブランコ設置	6:30~7:30	朝食	
			8:00	メーサン小学校に向けてホテル出発	
			9:00~11:30	ブランコ設置作業 完成	
			11:30~13:30	昼食	
		贈呈式	13:30~	ブランコ、手洗い場贈呈式	
		衛生ワークショップ	14:00~	衛生ワークショップ	
		交流会	14:30~16:00	交流会	
			16:00	交流会終了 ホテルへ	
			17:00	ホテル着	
			18:00~19:00	夕食	

2 日間、暑い中での大変な作業でしたが、皆の頑張りで予定通り完成させることができました。

その後のブランコと手洗い場の贈呈式も滞りなく行うことができました。

また贈呈式後に行われた衛生ワークショップは子ども達を巻き込んだ和気あいあいとしたワークショップになりました。交流会の綱引きは子ども達の圧勝で大変な盛り上がりでした。（安田）

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ~一日を通して感じた思い~

メーサン小学校の校長先生・職員・コミュニティの皆さん、私たちの訪問を歓迎していただき、ありがとうございました。JHP のスタッフの皆さん、皆さんの協力のおかげで無事にブランコを贈呈することができました。ありがとうございました。

子どもたち、私たちが温かく受け入れてくれてありがとう。そして、たくさんの笑顔をありがとう。（鈴木）

### ■ 4 日目の感想

#### ①ブランコ設置(完成)

子どもたちがキラキラの目でペンキ塗りを見守る中、隅々までしっかりペンキを塗っていきます。ペンキを隙間なく塗らないと錆やすくなるので乾かしたら二度塗りもします。オレンジに塗られていくブランコを見ると、活動も終わりに近づく切なさ、ブランコへの愛しさで胸がいっぱいになりました。そして、ペンキを塗り終わり、ブランコに椅子を取り付けたら遂に完成。服や顔や手にオレンジのペンキをつけつつも、完成したブランコを見ると皆喜びに溢れ、オレンジ色の涙を流し歡喜しました。

#### ②贈呈式(ブランコ、手洗い場)

休憩を挟み、ブランコの贈呈式が始まりました。

現地スタッフさんの掛け声ですぐに整列する真面目な子ども達を見て、感動しました。

その後は、ボランティアメンバー隊長の鴨野凱鬼マッチョくんが代表して英語でメッセージを伝えてくれました。炎天下の中、頑張って話を聞いてくれる子ども達の姿にパパはまた感動しました。

#### ③衛生ワークショップ(手洗いについて)

5 人のメンバーが手洗いの衛生ワークショップをしてくれました。

四元くんの流暢な英語で手順を説明してくれて子ども達も楽しく聞いている様でした。

その後はバレーボールや折り紙、サッカーや様々な遊びで交流しました。

子ども達のエネルギーに圧倒されつつ、クタクタになりながらも、キラキラの笑顔に癒されました。

カンボジアの子ども達と交流できたことは、とても楽しく、かけがえのない時間になりました。

とても盛り沢山で充実した一日でした！ この様な機会を頂きとても感謝しています！（吉田）



## 本日の作業、イベント

- ・ペンキ塗り 1、2
- ・贈呈式 3
- ・衛生ワークショップ 4
- ・交流会 5、6、7



## 活動 5 日目



8月24日	5日目	芸術教育見学	7:00~8:00	朝食
			8:30	ホテル出発
			~11:30	プノンペンに移動
			12:00~13:00	昼食
		14:00~16:00	NTsによる芸術教育見学 参加	
		17:00	ニューヨークホテルにチェックイン	
		18:00~19:00	夕食	

スワイリエン州からプノンペンに向け 3 時間の移動でした。

ナショナルトレーナー(\*)による芸術教育見学では、美術と音楽の授業に参加しました。

美術の授業では、自分の好きな風景を描き、お互いの絵を紹介して共有しました。

また音楽の授業では、歌とダンスをして、カンボジアの文化を感じることができました。(鴨野)

(\*)日本人専門家等の指導を受けて、芸術教育において模範となる教員。この教員が他の芸術教育の先生を指導します。

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ~一日を通して感じた思い~

プノンペン市内に戻り、芸術教育(音楽・美術の授業)を見学しました。

このような機会を与えていただき、ありがとう。(磯山)

### ■ 5 日目の感想

プノンペンにある公立の小学校を訪問させていただき、美術と音楽の授業を子ども達と一緒に受けさせていただきました。美術の授業では「今までに行って印象に残っている場所を描きましょう」という課題を私達もやらせてもらい、音楽の授業では歌と踊りを一緒に学びました。

スワイリエン州のメーサン小学校と首都プノンペンの学校との格差(学校の施設、教育プログラムなど)にかなり衝撃を受け、これがカンボジアの現実なんだと痛感させられました。

一方で、子ども達の前向きな姿勢、利発さはどちらの小学校も同じで、この国の明るい未来を感じ取ることが出来ました。(渡辺)





本日の授業（NTsによる芸術教育見学）

・美術の時間 1、2、3

「私の好きな風景」がテーマ。

色鉛筆とクレヨンで描きます。

・音楽の時間 4、5、6

カンボジアの民族音楽を歌って踊ります。

この音楽、なんと6日目の芸術鑑賞でも、みんなが踊ることになりました。



NT ナショナルトレーナー

## 活動 6 日目

8月25日	6日目	CCH交流	7:00~8:00	朝食
			8:30	ホテル出発
			9:30~12:00	CCH訪問、交流 CAP
			12:00~13:00	昼食
	NOM POPOKさん	13:00~14:00	NOM POPOK 大路さん語る会	
		15:00~	カンボジア芸術鑑賞	
		芸術鑑賞	18:00~	夕食



CCHに行き、子ども達と共に立体的な動物を制作しました。  
お昼を食べた後に食育の授業を受けて、食べることの大切さを教わりました。  
その後、カンボジアの伝統的な踊りを体験しました。(佐々木)

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ~一日を通して感じた思い~

CCHの子どもたちが温かく迎えてくれ、物作りをしたり一緒に楽しい時間を過ごしたりすることができました。ありがとう。(荒木)

### ■ 6日目の感想

今日は芸術教育、食育の現場を見学して、子どもたちの想像力と感情の豊かさに触れて感動しました！芸術鑑賞では伝統的な文化を体験することができ、とても楽しい1日でした。(山森)



CCHの皆と記念写真



## 本日のイベント

- ・CCH の子どもたちと創作活動  
廃棄される日常の物を使って、大きな動物を制作します。 1、2、3、4  
講師は美大生の隊員 1
- ・NOM POPOK の大路さんから食育の講義 5
- ・カンボジア芸術鑑賞 6  
民族衣装を着て、みんなで踊りました。  
この音楽はなんと、5日目の授業で習った音楽と踊りでした。



## 活動 7 日目



8月26日	7日目	うどん山	7:00~8:00	朝食
			AM	うどん山 散策
			12:00~13:00	昼食
		NGO訪問	13:00~15:30	移動 NGO Side by Side International 訪問
			15:30~17:00	移動 ホテル到着
			18:00~	夕食

朝食後、コンポンチュナン州にある「ウドン山」を訪問。1618年から250年間王都があった、ウドン山（最高の山と言う意味）。509段のステップを登ると白い仏舎利塔（高さ40メートル）が見え、高台からの展望も素晴らしかったです。

昼食後、ホンケンコン市場で立ち寄りショッピング。

その後、NGO Side by Side International を訪問しました。

このNGOは、日本や海外で、貧困や災害等の困難な状況に直面している人々の生活向上の為に、人道的支援を展開されています。カンボジアでは、救急車等の救急車両や医療機器の寄贈、輸送、公立病院の医療従事者のために訓練を通じて、救急医療体制の強化、貧困な村や養護施設での医療・衛生支援等も実施されている団体です。

国立医療センターに到着後、交通事故を想定した救急搬送のデモが行われ、佐々木さん等によるNPO法人の活動及び救急医療の重要性等の説明があり、意見交換を行いました。（北村）

### ■ 『今日のありがとうございます！』 ～一日を通して感じた思い～

午前はウドン山見学、午後は Side by Side International の活動を見学しました。

ガイドのマリーさんには1日親切に案内して頂きました。SBS I(Side by Side International)の佐々木さんからは、カンボジアでの救急医療体制や人道支援についてお話を伺いました。

ありがとうございました。（新行内）

### ■ 7日目の感想

あっという間に時間が進み、もう日本に帰らなきゃいけないのが寂しいです。

子ども達のかわいさに癒されたり日本とは違う文化に戸惑ったりしつつも、すごく濃くて楽しい時間でした。ウドン山では様々な仏像や彫刻を見ることができ、とても勉強になりました。

来年もぜひまた参加したいと思います。（松本）





うどん山 1、2  
この階段を登ります 2

NGO 見学 3、4  
救急車で運ばれる隊員 3  
安心して下さい。演習です。  
救急隊員の皆さんと 4



## 日本に向けて 活動 最終日

8月27日	8日目	買物等	7:00~8:00	朝食
			9:00	チェックアウト 最終日荷物は車両に積み込む
			AM	セントラルマーケット イオンモール
			13:00~14:00	昼食(パスポート返却)
			14:30	空港へ
8月29日		帰国	17:45	出国 → ハノイに
			21:30	ハノイ着
			0:20	乗継 → 帰国
			7:35	成田に到着



28日早朝に2023年8月隊の16名全員が成田空港に到着、無事に帰国しました！

約8日間のカンボジア体験ボランティアを通じて、全員が普段経験することのできない、沢山の人生の学びがあったようです。

ぜひ今回の体験ボランティアでの実体験、そして「カンボジアの今」を多くの人に伝えていきましょう！



## レポート係から思いを寄せて

### 【ブランコ建設と子ども達】 高橋 園香

ブランコ建設は初めて行うメンバーも多く、また暑い中での作業となりましたが、無事に2日間で完成し子ども達に贈呈することができました。作業中は子ども達が授業の合間に様子を見に来て作業を手伝ってくれたり、ココナッツの差し入れを運んでくれたりして、その純粋な心に癒され元気をもらいました。ブランコが完成したあと、子ども達がすごく楽しそうにブランコに乗っていたのを見て、体力的に大変なこともあったけれど頑張っただけよかったと思えました。

自由時間に子ども達と遊び、心から楽しんでいる姿を見ていて、カンボジアに来る前は貧困のイメージが強かったけれど、実際は環境など関係なく子ども達はとても明るく元気に満ち溢れていると感じました。日本と比べると言葉だけでなく文化も環境も異なるけれど、純粋で元気な子ども達のために活動することができてよかったし、日本に帰ってからも今自分ができることから何か出来たらと思いました。



## レポート係から思いを寄せて

### 【カンボジアの風景と人情】 大平 賢奈

私たちが活動を行った場所は、首都プノンペンとそこから車で3時間ほどのスワイリエンという都市部から離れた場所でした。この二つの地域には、都会と田舎という印象を受けました。

プノンペンは交通量がとても多く、大きな乗用車とバイクが多く見られ、お互いにスレスレで道路を走っていました。ビルは高く、お店のショーケースが大通り沿いにずっと並んでいました。途中ビアガーデンのようにライトアップされた場所もあり、とても賑やかな都市でした。

一方スワイリエンでは、道路沿いには木が、地面には砂が多く見られました。落ち着いた場所でお店はあまり見られず、民家が立ち並ぶ場所もありました。

プノンペン、スワイリエン、どちらの地域も、人々はフレンドリーで接しやすく、クメール語でオークン(ありがとう)や、チョムリアプ・スオ(こんにちは)というと、笑顔で応えてくれました。学校の子どもたちも、もちろんフレンドリーで、こちらがクメール語が分からなくても気さくに話しかけてくれました。お互いに言葉は通じなくても、みんな笑顔で楽しそうに一緒に遊びました。カンボジアの人々は皆優しく、明るく、その笑顔からこちらも元気をもらうことができました。



## レポート係から思いを寄せて

### 【日本の皆さんに伝えたいこと】 四元 宏基

私自身、英会話講師として子どもたちと関わる機会がありますので、カンボジアでの教育の実態を通じて伝えたいことがあります。

私たちは3つの学校を訪れ、教育の違いを目にしました。充実した教育環境を整えたモデル校に対し、農村部の学校は設備や教師の不足が顕著でした。また、児童養護施設の子どもたちの絵や工作物は日本の小学生よりもレベルが高く、成長の可能性も実感しました。農村部の子どもたちの純粋な子ども心にはこの子たちを何とか支援したいという思いが芽生えました。

彼らは日本の子どもたちよりも他言語を汲み取ろうとする意志を持っており、英語教育が彼らに適していると感じました。その為、特に仕事の少ない農村部で生きるための英語教育の普及に力を注ぎたいと願っています。

カンボジアの実情は私たちが訪れた場所の一部に過ぎません。今回訪れなかった、より貧困に苦しむ地域が存在するのも事実です。だからこそ、実際に足を運んでカンボジアを見てほしいと思います。教育に限らず、様々な課題が山積みです。違った場所や視点から感じることもたくさんあります。そして、我々先進国の存在が貧困の格差を広げる一因であることを自覚し、考える契機にして頂ければ幸いです。

最後に、2011年東日本大震災の際に日本に援助に来てくださった方に出会いました。今回私たちが援助の側に立ちましたが、過去には助けられたこともあります。困難な状況にある人々への支援の大切さを実感しました。困難を乗り越えるための共感と協力の精神で、まずはカンボジアに関心を持ち、足を運んで頂ければ幸いです。



## 参加者感想

### JHP カンボジア体験ボランティア参加報告

所属 学生

氏名 佐々木心優

8月20日から8月27日までの7日間のJHPカンボジアボランティア活動隊への参加は、私にとって貴重な経験となりました。高校時代に所属していたボランティア部では、カンボジアへの募金活動などカンボジアと関わる機会が何度かありました。



ボランティアを行うごとにカンボジアへの興味が増し、いつか行ってみたいと考えるようになりまし。そんな時に見つけたのが、カンボジアへ行き、ボランティアができるというJHPのホームページでした。「これに、行くしかない」と思いました。しかし、私はカンボジアへ行くことが、とても怖かったです。カンボジアの貧困を知り勝手に悲しい思いになるのではないかと考えたからです。でも、そんな心配は無用でした。カンボジアの子どもたちは、とても笑顔で優しい子どもばかりでした。本当の心の内を理解することはできませんが、きっと幸せな子どもたちだろうなと感じられたからです。私が想像していたカンボジアとは全く違いました。とても優しい国で、子どもたちの笑顔が溢れるすてきな国でした。だからこそ、私はこの子ども達が絶対に幸せになって笑顔が絶えない人生を送れるようなサポートをしたいと強く思いました。初めて発展途上国に行き、自分の目で見て考え方が180度変わりました。

今回の経験をしたことで、私は大学で発展途上国のことをもっと学び何が必要で、どんな支援を求めているのか知りたいと思いました。卒業後はJICAやNPO法人などの力を借りさせていただき、少しでも発展途上国の役に立てることを行っていきたいと考えています。こんなにも貴重な機会をいただき、ありがとうございました。これからも、たくさんの方に挑戦したいと思うきっかけになりました。

本当にありがとうございました。



## 参加者感想

### カンボジアのボランティア活動を終えて

所属 学生

氏名 鴨野 凱

私は今回のボランティア活動を終えて、人の関わりを通して人の温かさを肌で感じることができました。また参加する前は、隊長として初対面のメンバーをまとめる事への不安が有りましたが、活動を通して各々が協力し合い役割を全うすることで連帯感が生まれ、

無事にミッションをやりとげられたので、自分自身も成長することができたと思います。

カンボジアの衣食住を身近に触れることで、日本との違いを身にしみて感じました。近代化された都市のプノンペンを離れて農村部に行きましたが、舗装されていない道路や、身体が細く痩せている人、汚れている服を着ている子どもたちを見て、貧富の差を感じました。また、移動途中の車から物乞いをする子どもたちを目にして、日本では考えられないような光景を目の当たりにし、日本が住みやすい国なのだと改めて実感しました。

この一週間色々なことを経験し、とても充実したボランティア活動を行う事ができました。今回のボランティアを通して自分自身が体験したことや、感じたことを知ってもらうために、少しでも多くの人に伝えていきたいと思います。



## 参加者感想

### 刺激だらけの 8 日間

所属 学生

氏名 荒木景子

姉に誘われて二つ返事で決めた今回のボランティア。初めての海外で、しかも行き先は日本の当たり前が存在しない国。不安と緊張で押しつぶされそう、、なんてことはなく、むしろ前日になっても実感がわかず、姉から「本当に出発明日？」と戸惑われるほどでした。少くく不安な気持ちがあってもいいのでは、と今では思いますが、逆に気構えせずに臨んだことで、余計な先入観なしにカンボジアという国と関われたと思います。

ブランコづくりのためにメーサン小学校に伺った日。車を降りた瞬間に子どもたちに囲まれ、身動きが取れないほどでした。こっちは日本語、向こうはクメール語。早口のクメール語で話しかけられて、全くコミュニケーションとれなかったらどうしよう、なんて思ったりもしていましたが、やはり同じ人間ですね。言葉などなくても十分に同じ感情を共有することができました。子どもたちのほじけるような笑顔を見て、今までの「発展途上国の子どもたち」のイメージが崩れ落ちたのをはっきりと覚えています。また、今回の 2023 年隊で一緒した皆さんからも多くの刺激を受けました。自分では想像もつかないようなバックグラウンドを持っている方、同じ学生であるにも関わらず色んな経験している方。どの方の話もすごく面白くて、刺激的で。私もこんな風に自分から色んな世界に飛び込みたいと強く思いました。このような貴重な機会を提供して下さった JHP の皆様、サポートしていただいた現地スタッフの皆様、本当にありがとうございました。2023 年隊のみんなへ、今回限りの関係にするつもりなんかないので！私がお酒飲めるようになったら、飲みにも連れてってください♪みんなが大大大好きです！！



## 参加者感想

### はじめての国際協力

所属 修士1年  
氏名 高橋園香

今回のボランティア体験ツアーでは、特にブランコ建設や CCH、芸術教育体験などが印象に残っています。子ども達と遊んだり言葉が分からないながらもコミュニケーションを取ったりして交流していく中で、改めて自分自身と向き合う機会になったと感じています。

正直子どもには苦手意識があったけれど、素直で純粋な、その元気さに癒されたし、沢山パワーをもらって、もっとこの子どもたちが不自由なく学び続けられるようサポートしていきたいし、困っている人たちをサポートできるような人になりたいと思うことができました。

これまでは、ボランティアというと、こちらから物資や労働力などを与えて助けるイメージや、カンボジアの人が自分の力でやっていけるようにサポートするイメージがあったけれど、今回参加してみて、私たちが子ども達やカンボジアの考え方、文化から学ぶことも多くあり、お互いに高め合える存在としての関係性もあるのかなという気づきがありました。

また、カンボジアと聞くと途上国で、生活に困っている人が多いなどマイナスなことをイメージしがちだったけれど、実際にカンボジアに行ってみて、想像していたよりも明るく元気な人たちが多く、生きる力にあふれているなど感じ、これまでのイメージが一変しました。日本などと比較すると途上国になるのかもしれないし、すべてが十分ではないし、もちろんそれぞれが問題を抱えているけれど、悲観的ではなく前向きに頑張っている人々を見ていく中で、自分の先入観が覆されたし、考え方が変わった期間だったなと思います。率直に参加してよかったと心から思っています。



## 参加者感想

### カンボジアボランティア体験

所属 学生

氏名 山森 鈴夏

今回のカンボジアボランティアは姉の紹介で参加させていただきました。

私のカンボジアに行くまでのイメージは、教科書で見るような子どもたちが配給された大きめのTシャツを着て、学校には行けずに水を遠くから運んでいるようなイメージでしたが、実際は日本とあまり変わらないと感じました。

空港の雰囲気や、システムも、かなり発展していて驚きました。

外に出ると、やはりアジア独特のカラフルなネオンや、五人乗りのバイク、意味があるのかわからない信号など、途上国の雰囲気に触れて、やっとアジアを感じることができました。

また、カンボジアの子ども達との交流では、ボランティアの人に慣れていることはもちろんあると思うけど、初めて会った私たち、バスを降りてすぐに駆け寄ってきてくれてすごく嬉しくなりました。しかし『ハロー』と言っても、ポカンとする子もいるくらい言語の壁がありました。みんな近寄ってきてはくれるけど、日本の言葉はわからず、私達もただ遊んで欲しい事くらいしかわからない状況で、これから2日間どう接していこうか不安でした。少しずつ、身振りや声のトーンで会話ができるようになり、最終的には鬼ごっこをできるようになって、非言語による伝達の大切さがわかりました。今回このボランティアに参加することで、カンボジアにはこんなにも笑顔で優しい子が沢山いることがわかり、とても感動しました。ボランティアでしか関わることのできない海外の小学生達は、私たちが思っているより笑顔で暗い一面があることに触れることができ、もっと世界に触れる仕事をしたいと考えました。スケジュール管理や私たちの身の安全を確保してくれた皆様に大感謝です。

ありがとうございました。とても楽しかったです。



## 参加者感想

### 学校へ行けない

所属 学生

氏名 四元宏基

コロナに大学生生活めちゃくちゃにされた。

墮落した数年間。なんなんだ、このつまらん生活は！そんなネガティブなことばかり考えていた大学生活。就活も無事終わり、大学4年の春、私は就活を続けているふりをし、フィリピンにいた。

そこで文化の違いを目の当たりにした。

食べ物を売り切らないと高校へ行けない子、コロナ禍で大学へ行けなくなった方、子どもを育てるために体を売っている方、奢ってやるといってくれたのによくよく聞いていると銀行口座を持っていない方。本当に様々な方と出会ったが、多くの方がどこか元気な雰囲気があり、フレンドリーに道を教えてくれたり、夜は危ないからと宿まで送ってくれたり、そんな温かい国だった。ただ、帰国してもずっと引っかかっていたのは学校へ行けない子だ。そんな時、ふと目にした友達のインスタ。そこで JHP・カンボジア研修を知った。行先はフィリピンではないが、これなら教育現場や、学生さんと接することが出来る。そんなことを思った。続き（カンボジアで訪問した3つの学校の違いや感じたこと）は本冊子の別ページに記載されている「日本の皆に伝えたいこと」を参照してほしい。

とまあここからは楽しかったことを書こうと思いまーす。今回の研修では学生から社会人まで幅広く参加していたので、社会人の話やブランコづくりを通して大学生活最後に青春を味わえた！と強く思っています！また、ホテルでは一人部屋を用意して頂いておりましたが、結局毎日マッチョな隊長と同じ部屋で（就寝時間を守って...）寝たり、カンボジアのビールを飲んだり！私にとっては修学旅行のような感覚でとても楽しく、帰ってきてからもよく、撮った写真を見返すくらい良い思い出になりました。また、これから社会に出て仕事以外に何がしたいか模索している期間にこのような刺激のある経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

最後に,,, 当たり前かのようにコロナ禍に学校へ行けて、自分でアルバイトをしているとはいえ、しまいには異国の地でボランティア。本当に大学生活つまらないとかコロナがなんだとか言っってはならないと痛感しました。

お父ちゃん、お母ちゃんほんとありがとうございます。

将来のことを考える良い契機になりました。



## 参加者感想

### ボランティア活動で学んだこと

所属 学生 2年

氏名 松本 陽

私はこのボランティアが初めての海外だったのですが、カンボジアの観光として行くのとは違うであろう深いところまで知ることができとても貴重な体験となりました。特に、トゥール・スレン虐殺博物館ではクメール・ルージュの支配下にあったポルポト政権時代の残酷な内戦の過去、カンボジアの人々が受けていた残虐行為の数々が鮮明に記されており、目も当てられない様などとても辛いものでした。



3日目からのブランコ制作では、スクールに降られる事態もありましたが作業は順調に進み、子ども達がとても元気に話しかけてくれたり、遊んでくれたりなど、とても楽しくできました。ブランコが完成してからは、ペンキが乾いていないにも関わらず、次々に子ども達が乗り、手や制服をペンキまみれにしながらも喜んでくれる姿は、その後のペンキを拭き取るのは大変でしたが、とても嬉しいものでした。

また、6日目のCCHでは、CAPとして子ども達に美術の授業をするという貴重な体験をさせていただきました。私は現在、多摩美術大学で学んでおり、教職の授業もとっているのですが、初めて子ども達と対面での活動だった為、拙い部分も多かったと思うのですが、子ども達の表現力や創造力に助けられ、私の中でとても充実したものになりました。また、授業後には子ども達と様々な遊びをしました。人工の道具を使わずに自然のものを使った昔ながらの日本と似たような遊びがあり、言語が通じない中でも、不安を感じる時間がないほど子ども達の温かさでいっぱいになり、一緒に遊ぶ中で多くの笑顔が見れたのがとても嬉しかったです。

私は海外に行くことが初めてであること、英語もコミュニケーションも苦手である事など不安も多かったですが、個人的な感覚として、カンボジアの子ども達はとてもフレンドリーで壁を感じることなく一緒に遊ぶことができ、日本とは違う人間性や文化に触れることができとても嬉しかったです。



## 参加者感想

## 活動記録

所属 学生

氏名 佐藤 彩名

私は美術を専門に学んでいる大学2年生です。この夏休みを機に自分を変えたいという思いがあり、ボランティアを考えていました。そんな時に友人の紹介があり、JHP・学校をつくる会のカンボジアボランティアに参加することを決意しました。結果は、このボランティアに参加して本当に良かったと思っています。



カンボジアの文化や歴史を学んだ事、子ども達とのコミュニケーション、活動隊の仲間と行動したこと、その全てがかけがえの無い大切な思い出です。

また、この体験を経て価値観が変わりました。カンボジアだと水道水は飲めない、洗濯機が無いため毎日手洗い、などの生活面の違い。そして、街の治安や風景、設備は日本に無いものばかりでした。そして、現地の子ども達はフレンドリーで笑顔が絶えず、言葉は通じなくともボディランゲージで意思を伝えたり、手を繋いでくれたりしてくれました。

この8日間、日常では感じる事の無い経験を沢山させて頂きました。人と関わることの素晴らしさを現地の方、活動隊の仲間、子どもたちからたくさん学ばせて頂いたと思います。

支援者様、現地の方、活動隊の方、その他関係者様、全てに感謝です。

本当にありがとうございました！



## 参加者感想

### 4年ぶりに学んだこと

所属 学生

氏名 磯山こはる

4年ぶり2度目のカンボジア。今回は高校1年生で何も分からない中で、大学生に付いて行かせて頂いた。

「初等科芸術教育支援事業」の一環として行われている初等教育の芸術科の模擬授業をナショナルトレーナーさんから受けた。この活動を通して美術教育の大切さを学んだ。現在は大学生になり

美術を学んでいる。美術教育を通して、子どもたちに「個性の大切さや協調性の大切さを教えた」と感じたことから教職課程を履修している。

今回は前回育成途中であった先生が小学生に教えている現場を体験させていただき、有意義な時間を過ごすことが出来た。また、前回同様CCHに伺った。CAP(CCH Art Project)という活動に参加させて頂いて、模擬授業を行った。子どもたちと大学生の隊員のチームと社会人の方の計5チームを作った。各チームでペットボトルや梱包材などのまだ使えるが捨てられてしまうものを使用し、「子どもたちの等身大ほどの大きな動物を作ろう!」というテーマで実施した。当日にグループをわけ、テーマを発表したのにも関わらず、数時間で作り上げられる子どもたちの頭のやわらかさに感動した。大人は経験が豊富なため、材料から何を作れるか、どのようにしたらいいかなど頭を使って作成しており、制作を通して大人と子どもの違いが見受けられた。互いに参考にしながら制作を進めていると感じた。子どもたちだけで数多くの制作を行うことも大事だが、たまには別の国籍や年齢の考え方に触れることでより感性が広がると感じた。

4年ぶり2度目のカンボジアでコロナがあったこともあり、街で様々な変化が見られた。しかし、CCHに行った時に変わらぬ笑顔の子どもたちがいて、とても懐かしかった。4年の月日がたったことで子どもたちが大きくなっており驚いた。4年ぶりに同じ子どもたちと写真を撮ることが出来嬉しかった。このような機会を与えて下さり感謝しております。



## 参加者感想

### 今回経験したボランティア活動をどう活かすか

所属 社会人

氏名 鈴木 直人

今年3月に約40年間の教員生活を終え、これからどういう人生を過ごしていこうかと考えるようになりました。その一つの指針として、学生時代からボーイスカウト活動や様々な機会を通じてボランティア活動に携わってきたこともあり、

『人のために役に立つことをしてい

きたい』という想いを巡らしている時に、“JHP 学校をつくる会・カンボジアボランティア隊員募集”というページを見つけ、応募させていただきました。

カンボジアは、以前観光で一度訪れたことはありましたが、ボランティアという形では初めてだったので、期待もありながら若者と一緒に64歳の私に何ができるかという若干の不安もありました。しかし、体調を崩すこともなく、ブランコ完成時に子どもたちが我先にと乗る姿、満面の笑みで楽しそうに乗る姿を見ることができ、無事に目的を達成できて良かったと感じました。また、ブランコを設置して終わりではなく、アフターケアも含め、同じような境遇にあるカンボジアの子どもたちのために、まだ何かやれることがあるのではと考えるようになりました。

一緒に活動した隊員の皆様、皆様のおかげで楽しくも充実した9日間でした。本当にありがとうございました。これからは、今回のボランティア活動での貴重な経験や感じたことを、それぞれの立場・方法で活かしていきましょう。これは、参加した隊員としての責任でもあると考えます。私は、カンボジアで見聞きしたこと、子どもたちの実態をより多くの人に知ってもらおうこと、日本にいる私たちが個人として、組織として何ができるのかを考え実行していきたいと思います。

最後にこのような機会を与えてくれたJHP事務局の皆様、大変貴重な経験をすることができました、感謝申し上げます。今後も機会がありましたらよろしく願いいたします。



## 参加者感想

### JHP カンボジアボランティア参加報告

所属 社会人  
氏名 渡辺真由美

JHP の鍵盤付きハーモニカの清掃ボランティア活動に参加した際に、今回参加した「JHP カンボジア体験ボランティア」について知り、参加してみたいと数年にわたり切望していました。

今回、念願が叶いボランティア隊に参加させていただきました。他のNPO の取り組みと異なり、ボランティア活動のみでなくカンボジアの教育の現状・文化・歴史などを幅広く知ることができるプログラムでした。

出発前から帰国するまで、こと細やかな準備やサポートを事務局の方々にしていただいたことで、充実した8日間を過ごすことができました。

これまで表面的にしか知り得なかったカンボジアの現状を自分の目で見て感じることは、JHP の事務局の皆さんが日々の充実した活動内容を組み立ててくださったお陰だと心から感謝しています。

2024年度の「JHP カンボジア体験ボランティア」に一人でも多くの学生さん達が参加してくれることを願っています。

カンボジアの子ども達にたくさんの幸せが訪れますように！



## 参加者感想

### カンボジアボランティア活動に参加して

所属 社会人

氏名 安田徹

カンボジアについての知識と言えば、アンコール・ワットとポルポトの独裁政治と大虐殺という負の歴史ぐらいでした。今回のボランティアで実際にカンボジアに行き、驚いたのは首都プノンペンの高層ビルや巨大なショッピングモール、そして首都を走る巡回バスなど街のインフラです。ただ、その中で道路を埋め尽くすバイク、さらにそのバイクが4～5人乗りして走っている光景のその対比と、その風景にカンボジアの持つエネルギーを感じました。

そしてそれ以上に強い印象を持ったのは、今回のボランティアで接した子どもたちの屈託のない笑顔の素晴らしさ、物おじしない姿勢、そしてオープンマインドでなんでも吸収してしまう柔軟性です。どこをとっても誰が見ても、伸びしろしかありません。カンボジアの未来を創る子どもたち、そしてその子どもたちの未来のために、彼らを応援し支援するJHP・学校をつくる会の活動は、まさにカンボジアの未来を創る活動なんだと思います。今回微力でもその一端を担えたことは本当に良かったと思っていますし、誇らしく感じています。

追記ですが、今回朝の散歩に参加させていただきました。多分この機会がなければ町の風景はもちろん暮らしている人たちの様子や日々の営みも知らないままだったと思います。もちろんカンボジアの日の出も見ることはなかったと思います。そんな機会を作ってください、引率してくれた和田さんに感謝いたします。ありがとうございました。



## 参加者感想

### 14年ぶり2回目の参加

所属 社会人

氏名 吉田 将三

タイトルにもある通りですが、私は2009年8月にもJHPの活動隊として参加させて頂きカンボジアに行きました。その時は23歳でした。

まず今回参加した理由としては

- ・14年間の変化を見たい
- ・国際活動に関わりを持ちたい
- ・同じ志を持つ人達に会いたい
- ・カンボジア料理を毎日食べたい

の4点でした！2009年と2023年の活動では違いが色々あります。

- ・活動期間 2009年=29日間 2023年=8日間
- ・参加者の年齢層 2009年=10代~20代 2023年=10代~60代
- ・ホテルが相部屋から個室へ 2009年=相部屋 2023年=個室
- ・ブランコが木製からスチール製

2009年=資材運び、木を加工する所からの作業(完成まで約7日間前後)

2023年=組み立て済みのスチール製のブランコにペンキを塗り椅子を取り付けて建てる作業(完成まで2日間)

大きく言うとこれらの違いがありました。またプノンペンでは商業施設や高層ビルなどが増え、道路の舗装が進み、車も走りやすく近代的になっていましたが、田舎に行くと舗装されていない道路、その辺を歩く牛、広がる農業地帯など14年前に見た光景が蘇りました。現地の子供達とは言葉が通じないのでジェスチャーや拙いクメール語で交流をしました。日本からおもちゃを持って行ったのですが、それを渡すと喜んで遊んでくれました。田舎の学校の子供们には娯楽がとても少ないんだろうと感じた場面でもあります。帰国後10月22日に報告会があり、2009年8月隊のメンバー2人が見に来てくれました。今も繋がっているのはとても嬉しく思います。最後になりますが、JHPスタッフの方々と支援者の皆様のおかげで長い間JHPの活動が続いており、今回もボランティア活動に参加させて頂くことができました。本当にありがとうございました！オークンチュラン！



## 参加者感想

### JHP カンボジアボランティア2023に参加して

所属 社会人

氏名 新行内博

今回初めて JHP・学校をつくる会のカンボジアボランティア隊に参加させて頂きました。

私は 40 年前学生だった頃、大学を一年間休学し、ネパールからインド、パキスタン、アフガニスタン、タイと約 7 か月間陸路で旅をした経験があります。今回若い人と旅をし、話をすることで、そのときに考えたことを忘れかけていた宿題のように思い出しました。カンボジアには初めて行きましたが強く感じたことをいくつか書きたいと思います。

2 日目にトゥール・スレンに見学に行きました。ここは 1979 年までクメール・ルージュにより拷問と虐殺が行なわれていた施設です。

本当に残虐な行為がカンボジア人の手によりカンボジア人に対して行われていたことがわかります。現在カンボジアで 65 歳の人たちは 20 歳の頃、この惨劇の渦中にあり拷問する側とされる側に分かれていたわけです。親戚や友人が犠牲になった人も多いと思います。自分と同じ年齢の人が自国で体験した悲劇を想像し、苦しく重い見学でした。

3 日目、ブランコをつくるメーサン小学校へ行くところちょうど休み時間で、生徒が校庭に出ていました。車を降りるとその生徒たちが笑顔で取り囲んでくれました。「こんにちは」「名前は何?」「何歳?」片言のクメール語で聞いてみると、笑顔で一生懸命に答えてくれます。握手の手を出すと、握って離しません。全身で好意を示そうとしてきます。この子どもたちの笑顔にはかないませんでした。

一方で学校の施設や組織が十分ではなく、子どもが 1 日学校で過ごせる状況ができていないカンボジアの現状を考えると、施設や教員・学習内容が整った「学校」をつくるお手伝いがこれからもできればいいなと考えた 10 日間でした。最後になりましたが、このような機会を作って頂いた JHP のスタッフの皆さん、支援して下さった方々に心より感謝申し上げます。



## 参加者感想

### カンボジアボランティアに参加して

所属: 社会人

氏名: 北村 巖

JHP・学校をつくる会のカンボジア ボランティア活動に、4年振り4回目の参加となりました。

6月中旬に私が所属している「銀雄クラブ(男性だけの会員で、介護老人ホーム等で車椅子の手入れ及び庭の清掃等を実施している団体。)」の定例会で、カンボジア ボランティア活動の資料をパワーポイントで作成し、1時間程講演を行いました。終了後今回参加された安田さんが「是非、参加したい。」との回答があり、一緒に参加することになりました。

8月25日午前中にメーサン小学校の校庭に到着後、ブランコ建設の準備が整い隊員が集まったところで、「ガンさんブランコ建設の指導をお願いします。」と指名され、不安で有りつつもブランコ建設の指導に携わりました。これまでは木製のブランコ建設で、今回初めてスチール製のブランコ建設でありましたが、これまでの経験と事前にブランコ建設マニュアルを拝見していたこともあり、ブランコ建設の工程をそれぞれ確認しながら指導を行ったところです。

これまでのブランコ建設では、怪我をする恐れがあるため鍬やツルハシを使うことができませんでしたが、今回初めて鍬やツルハシを使うことになったこともあり、特に怪我をしないように足を広げて使うなど教えながら、怪我もなく完成できて良かったと思います。

JHP プノンペン事務所では、学校建設の他にも新たに芸術・教育(親御さんの識字教育)も教育省と連携して取り組みをされていますが、プノンペンなどの都市部では中国資本の商業ビル建設及びマンション建設などで一段と発展していますが、地方とでは益々格差(教育、仕事、医療、食料等)が広がって行くのではないかと懸念されます。

カンボジアで出会った子ども達の目は輝き、笑顔が何とも言えない表情です。本当に癒やされた感じがしました。

学生の皆さんと一緒に8日間共に汗を流して活動し、体験を通して多くのことを学ぶ場になりました。ボランティア活動ならではの体験となり、学生の皆さんも今後の人生の活路が開けた人もいるのではないかと考えています。

今回のカンボジア ボランティア隊の派遣には、企画・運営をして頂いたJHPの事務局の皆さん、そしてサポーターの和田さん及び現地スタッフの皆さんにも大変お世話になりました。天候にも恵まれ、怪我人もなく全員が無事帰国できたことが何よりです。本当にお疲れ様でした。今後もこの経験を基に「輪」を広げ、少しでも社会のお役に立てるように、心掛けて参りたいと思います。



# JHP・学校をつくる会



**Ban Rath**



**Mao Canarinn**



**Sreng Kimheng**



**辰川 はる奈**



**水野 泰晴**



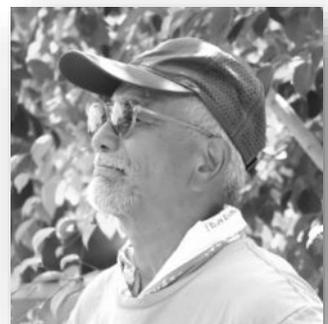
**Nou Chantha**



**渡辺 悠斗**



**野村 政道**



**和田 勝則**



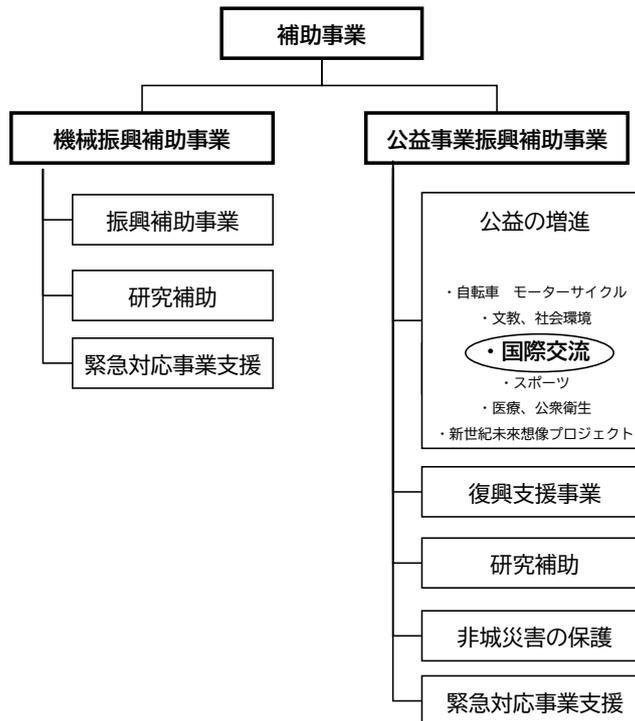
# 活動への支援団体

## 公益財団法人 J K A（競輪とオートレースの振興法人）

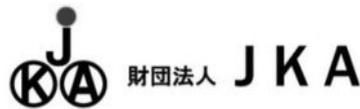
### 補助事業の概略

補助事業とは、『機械振興補助事業』と『公益事業振興補助事業』に分かれています。

J H P の活動は国際事業分野に該当するため、下図の公益事業振興補助事業内、公益増進区分の国際交流推進事業、“競輪補助事業”より活動へのご支援をいただきました。



競輪の補助事業



JKA の助成金による印刷物での活動報告は、今回が最後になります。





# 学びたい気持ちを支えたい！



JHP・学校をつくる会は人種・国籍・宗教、その他の信条の違いに関わらず広く教育などの援助を行い、また次世代を担う若者たちへの地球市民教育の実践を目的とする NPO です。

特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会

プノンペン事務所

#37 Street.476, Sangkat Toul Tumpong 2,  
Khan Chamkarmon, Phnom Penh, Cambodia

東京事務所

東京都港区芝5-14-2 鈴木ビル2F



認定NPO法人  
**JHP・学校をつくる会**  
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER